

**RF レンズ初の超広角単焦点レンズ“RF16mm F2.8 STM”を発売
遠近感を強調した迫力ある表現と質量約 165g の高い携行性を実現**

キヤノンは、「EOS R システム」の交換レンズ「RF レンズ」の新製品として、持ち運びやすく、スナップや風景撮影に加え、自撮りなどにも好適な普及価格帯の超広角単焦点レンズ“RF16mm F2.8 STM”を2021年10月下旬に発売します。



RF16mm F2.8 STM

“RF16mm F2.8 STM”は、ロングセラーとなっている「EF50mm F1.8 STM」(2015年5月発売)や、RFマウントの「RF50mm F1.8 STM」(2020年12月発売)と同等の小型・軽量化を実現した、超広角単焦点レンズです。「EOS R システム」では初となる超広角単焦点レンズをラインアップに加えることで、ユーザーの多様な写真・映像表現のニーズに対応します。

■ 焦点距離 16mm の超広角を生かした多彩な写真・映像表現

焦点距離 16mm の超広角を生かし、複数人での自撮りや、撮影スペースの限られた室内での撮影などに対応します。また、最短撮影距離 0.13m、最大撮影倍率^{※1}10.26 倍をそれぞれ実現しています。被写体を大きく映しながら、背景との遠近感も強調するといった表現を楽しむことができます。

■ 約 165g の小型・軽量でありながら高画質を実現

「EOS R システム」の特長である大口径・ショートバックフォーカス^{※2}を生かした、撮像面近くに大口径レンズを配置する 7 群 9 枚の光学設計により、高画質と小型・軽量を両立しています。また、開放 F 値 2.8 の明るさにより、室内・夜間といった暗いシーンでの撮影に加え、動く被写体など速いシャッタースピードが求められる撮影にも対応します。さらに、最大径約 69.2mm、長さ約 40.2mm、質量約 165g の小型・軽量を実現し、気軽に携行して撮影を楽しむことができます。

製品名	希望小売価格	発売日
RF16mm F2.8 STM	オープン価格	2021年10月下旬

※1 被写体の実際の大きさと同撮像素子に写る像の大きさの比率。撮影倍率が等倍であれば、被写体を原寸大である等倍（1.0 倍）で撮像素子上に写すことが可能。

※2 最後部のレンズ面の頂点から撮像面までの光軸上の距離が短いこと。

● 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンお客様相談センター

0570-08-0002

● E O S ホ ー ム ペ ー ジ : canon.jp/eos

<主な特長>

1. 焦点距離 16mm の超広角を生かした多彩な写真・映像表現

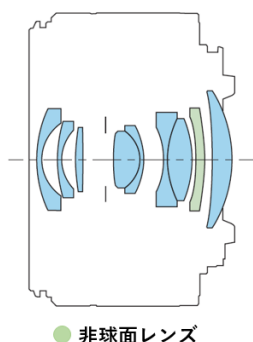
- ・焦点距離 16mm の超広角を生かし、複数人での自撮りや、撮影スペースの限られた室内での撮影などに対応。
- ・被写界深度が深く、遠くの景色までピントを合わせることが可能。焦点距離 16mm の広い画角のため、建物などを背景にした複数人での自撮りにも好適。
- ・最短撮影距離 0.13m、最大撮影倍率 0.26 倍をそれぞれ実現。被写体を大きく映しながら背景との遠近感も強調した迫力ある表現が可能。子どもやペットを愛らしく強調するデフォルメ撮影にも好適。
- ・開放 F 値 2.8 の大口径と最短撮影距離の短さにより、遠近感とボケ味を生かした写真表現が可能。



焦点距離 16mm の超広角を生かした撮影

2. 約 165g の小型・軽量でありながら高画質を実現

- ・「EOS R システム」の特長である大口径・ショートバックフォーカスを生かした、撮像面近くに大口径レンズを配置する 7 群 9 枚の光学設計により、高画質と小型・軽量を両立。
- ・開放 F 値 2.8 の明るさにより、室内・夜間といった暗いシーンでの撮影に加え、動く被写体など速いシャッタースピードが求められる撮影にも対応。
- ・非球面レンズ 1 枚を撮像面近くに配置することにより、画面全域まで高画質を実現。
- ・「RF マウント」を生かした光学設計や、フォーカス/コントロールリングを兼用したリングの採用などにより、最大径約 69.2mm、長さ約 40.2mm、質量約 165g の小型・軽量を実現。気軽に携帯して撮影を楽しむことが可能。
- ・7 枚羽根の円形絞りを採用し、自然で柔らかなボケ表現を実現。



“RF16mm F2.8 STM” の光学構成図



コンパクトなレンズ筐体（EOS R6 装着時）

<主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。